

2月19日(日) OPEN LABO. 開催

オーブンラボ新聞

発行人
StudioNoguchi

「子ども用と大人用のかぜ薬を化学の力で見極めましょう。」千葉科学大学薬学部の大実験室でOPEN LABOが始まった。初開催となるOPEN LABOの対象者は中高生だ。千葉科学大学付属高校らの高校生および同日の午前中に開催された合格者見学会に参加した高校生が参加した。



OPEN LABO.講師の野口准教授

「教えてくれた学生さんも優しくかったので、緊張せずにすみました。」

今回の実験は医薬品に含まれる特定の原子のつながり、すなわち官能基（かんのうき）の性質を利用し、子ども用と大人用のかぜ薬を見極める。高校三年生で学ぶ「有機化学」で学ぶ内容だ。参加者はティーチングアシスタントの学生と共に和やかな雰囲気のまま実験を進めた。



ティーチングアシスタント (TA) の大学生

千葉科学大学

OPEN LABO.

キーワード:アセトアミノフェン

フォローアップ制度「ゼミ体験」
まなび入学前教育「化学実験」

友だちが行くというから
なんだか面白そう
先生に勧められて
大学でどんなところだろう?
医療系に興味があります
実験が好き
実験がやりたい

有機化学対策として
大学を知って準備を始めたい
時間があるからやってみよう!

第1回目 2/19日 13:10~14:40
合格者見学会と同日開催

第2回目 3/18日 13:10~14:40
オープンキャンパスと同日開催

☆開催場所☆
千葉科学大学 マリーナキャンパス 薬学部棟 3F 大実験室

☆申込方法☆
右のQRコードを眺めとり必要事項を入力してください

お問合せ先:千葉科学大学入試広報部
0120-919-126

OPEN LABO. テーマ
「化学の力でかぜ薬を見極める」

QRコード
テーマ紹介動画 [01:34]

本テーマ紹介動画には子ども用と大人用があります。この2つの薬品は共に白色の液体で匂いや見た目では区別がつかず、しかし、化学の力を借りるとこの2つを見極めることが可能です。薬品に含有される官能基、官能基の存在位置、大学に特有な装置、文化の違いによって何となく申し込みが多くなるなど、大学での知識や興味深い点と共有したいと思います。

本テーマからのアンケートコメント☆
OPEN LABO.は楽しかったです。子ども用と大人用で成分が異なることを知って面白かったです。
アセトアミノフェンとアスピリンを見分ける方法を習ったので、どうしたら子どもと大人用の薬を分けられるのか、自分たちで実験をやらせながら実験できたのが良かったです。アセトアミノフェン/アスピリンを区別できているので、この実験を通して自分の力で気づかせることができたと思います。
〇薬品にも化学の知識が活かされているということが実感しました。
〇有機化学はなんとなく難しいイメージしか持っていませんでしたが、面白くなるなど生活に活かしている知識があるとうれしかったです。



「やったー」
来場者は子ども用と大人用のかぜ薬を実験を通じ見極め、TAに実験結果をプレゼンした。全てのグループが官能基の特性を利用し、2種類の医薬品を見極めることができた。

「めちゃくちゃ楽しかったです」

初開催のOPEN LABOは参加者全員から「満足」の評価を得、無事終了した。今回は3月18日(土)だ。多くの来場者にお越しいただき、化学をエンジョイしたい。

